

令和6年度 第4回施設長会 会議資料

(川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会)

— 議 題 —

1 各プロジェクト委員会の進捗状況等について … 資料1

- (1) 災害プロジェクト委員会について
- (2) 人材プロジェクト委員会について

2 施設長会情報交換テーマについて … 資料2

3 民間社会福祉施設従事者福利厚生費助成事業を活用したオンライン研修内容について … 資料3

4 第22回かながわ高齢者福祉研究大会での発題数について … 資料4

5 施設部会より … 資料5

- (1) ふくしの出張講座について
- (2) 食糧支援かわさきについて

6 神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会 … 資料6

- (1) 第2回委員会(9/27)について

7 第59回関東ブロック老人福祉施設研究総会(長野大会)について … 資料7

8 その他

- ・川崎市総合研修センター … 資料8

各プロジェクト委員会の進捗状況について

1 災害プロジェクト委員会・防災班長会議

(1) 第3回災害プロジェクト委員会・防災班長会議 / 9月4日(水) 10時～11時

«協議概要»

① 令和6年度 E-Welfiss 及び防災無線機を活用した情報伝達訓練について

1 目的

発災時に市及び各区と各所管施設等との連絡体制を確保するため、複数のツールを使用した情報伝達を模擬体験することにより、災害発生時の対応力向上を図るとともに、E-Welfiss 及び防災無線機の操作習熟度を向上させる。

2 実施概要

(1) 実施日：令和6年11月22日(金) 13時10分～15時00分

(2) 実施場所：各施設等、各所属、本庁舎会議室（災害福祉調整本部）

(3) 参加対象：市役所関連〔災害福祉調整本部（長寿社会部・障害保健福祉部・地域包括ケア推進室）、リハビリテーションセンター（南部・中部・北部）、各区役所支所 高齢・障害課（保健衛生・福祉班）〕

高齢者施設〔特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホームの一部、サービス付き高齢者向け住宅の一部、高齢者向けグループホームの一部〕

障害者施設〔障害者支援施設、医療型障害児入所施設、短期入所施設〕
救護施設

地域包括支援センター

基幹相談支援センター

関係機関等〔川崎市社会福祉協議会、川崎市老人福祉施設事業協会、川崎市障害福祉施設事業協会〕

(4) 使用ツール：E-Welfiss、防災無線機（MCA無線）

※防災無線機が未設置または繋がらない場合は電話や E-Welfiss を使用

(5) 想定災害：令和6年11月20日(水) 8時30分発生

川崎市直下地震（最大震度6強）

(6) 訓練内容：川崎市直下地震（最大震度6強）の発生を想定し、市及び各区と各施設等との連絡体制を確保し、各施設等からの被害状況報告を受け、被害内容の確認等を実施する。

② 施設間連携強化の取組み

目 的：川崎市内及び近隣他都市との実効性のある施設間連携・情報共有をより一層推進するため、他都市との情報交換を実施する。

情報交換先：横浜市社会福祉協議会高齢福祉部会災害プロジェクト委員会 12名

実 施 日：令和6年9月18日（水）15時～（※1時間半程度）

会 場：横浜市健康福祉総合センター8階 会議室

テ ー マ：『災害対応について』

- ・横浜市内、川崎市内それぞれの施設間連携の状況（区内施設で連携して防災訓練を実施しているか等）や物資提供に関する約束事について情報共有
- ・情報伝達システムの課題や現状について
- ・指揮系統の課題について

プログラム：1. 横浜市域・川崎市域それぞれの災害への取り組み状況の報告
2. ブロックや区での取り組み概要について
3. ハザードマップに基づいたGW・全体報告

③ 災害対応に関する研修会について

内 容：策定されたBCPをもとにどのように研修・訓練を実施すればよいか、また研修・訓練を通して得られた振り返りをもとに、BCPをブラッシュアップしていくための注意点等について学びを得る。

加えて、近隣他施設がどのようなBCPを策定しているか情報を共有し、互いに良い部分を取り入れ合う。

実施時期：10月29日（火）14時～16時30分

会 場：川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）7階 大会議室

講 師：MS&AD インターリスク総研株式会社

形 式：講義及び演習（対面のみでの開催）

④ 各班の訓練等取組み状況について

川崎：7月9日に川崎ラシクルを被災施設と想定した情報伝達・物資移送訓練を実施し、訓練後にミーティングを行った。訓練ではE-Welfissの支援要請を使ったのだが、広くSOSを発信することができる点が有効だったので、今後も訓練に取り入れていく。訓練ではホールを使用し、プロジェクターでE-Welfiss画面を映し出し、マイクを使って参加した方に情報共有をはかった。また、ビブスも用意されており、施設スタッフだということが一目で分かるようにしていた点もポイントだった。次回は10月9日に実施予定。

幸：7月23日 AM に第1回班会議を開催。それに先立ち夢見ヶ崎を仮想被災施設とした情報伝達・物資移送訓練を実施。区内8施設全てが参加。訓練については危機管理室に依頼し、幸区のスレッドを立ちあげてもらった。E-Welfiss については、支援要請と被害報告画面が別々になっているところが使いづらいという意見がだされた。次回は全施設がノートパソコン等を持参して E-Welfiss の使い方を確認しようということになった。仮想被災施設が夢見ヶ崎だったのだが、支援物資受入記録・受取表というものを清水施設長が作成しており、どんなものをどの施設から受け取ったかが分かるようになっていたので、今後も活用していきたい。また訓練での初の試みとして、近隣施設（南さいわいと幸風苑、こむかいと奏デイ）がお互い協力して、1台の車で2施設が合同で物資を運ぶという取り組みをした。現地に駐車場がなかったり、駐車スペースが少なかったりすることもあるので、効率的、効果的に物資を運ぶことができたので、今後も継続して取り組んでいきたい。夢見ヶ崎公園駐車場の現地確認を行った。水害が発生した際の公用車の避難先ということで取り組んできたのだが、全施設が避難するには駐車スペースが少ない印象だった。次回は9月～10月に第2回の会議を実施する予定。

中原：7月4日14時から E-Welfiss を用いた情報伝達・物資移送訓練を行った。ひらまの里を仮想被災施設として8施設中7施設が参加。被災施設は何を必要とするかを発信し、届ける側の施設は到着目安時間を発信することに取組んだ。到着目安時間が分からないと受入側としても難しいところがあると思うので、道路状況によって前後することはあると思うが、おおよその到着時間を知らせるようにした。訓練後の班会議の中で、今年度は3回取組もうということになり、10月と2月に実施予定。10月は等々力を仮想被災施設として情報伝達・物資移送訓練を実施する予定。訓練時に、ひらまの里の佐藤施設長が施設の中での防災対策を見学させてくれたのだが、非常用自家発電や止水板等の具体的な取り組みを見ることができ、また参加施設とも情報交換ができたので良い機会となった。災害時の対策として、連絡を取り合うことができるように連絡先一覧を作成した。施設の電話番号、施設の携帯電話の電話番号、メールアドレス、施設長名、防災責任者名を載せた一覧を作成することで、実際に要請する時に活用できるようにしたい。

高津：7月30日に水リレー訓練と情報伝達訓練を実施。水リレー訓練に参加したのが6施設、情報伝達訓練のみに参加したのが2施設。発災直後を想定して近隣施設とのやり取りということで水リレー訓練にした。課題としては、事前に大まかなルートは送っていたのだが、Google マップのルートだと実際の災害時に使えなくなる可能性のあるルートが示されてしまったので、実際どのみちであれば通れる可能性が高いかも確認しながら次回の訓練につなげていきたい。また、E-Welfiss を全く使えないという施設が1施設あったので、情報伝達訓練だけでも頻度を上げて実施できればと思っている。次回は11月頃を目途に訓練を実施する予定。

宮前：8月7日 AM に情報伝達・物資移送訓練を実施。仮想被災施設は風光。訓練後の振り返りの中で、区内と言っても範囲が広いので、一概に区内で物資移送訓練を行うのではなく、実際

に対応できる範囲での方法も検討した方が良いとの意見が出た。実際、発災時でなくても鷺ヶ峯から風光までの物資移送に20分かかるため、発災時に現実的な範囲での取組みを検討していく必要がある。また、E-Welfissを使用できる職員が限られているので、多くの職員が使えるようになるためにも、もう少しE-Welfissの訓練を行った方が良いとの意見があり、11月15日にE-Welfissを用いた訓練を実施する予定。区内の1施設が被災した想定訓練は行っているが、複数施設が被災したことを想定した訓練を行うのも良いのではと考えている。

多摩：7月17日に防災班会議を開催。人的支援の訓練をしてみようという話になったのだが、保険がどうなるのかというのが課題として出た。保険の範囲は労災の範囲（派遣された職員が転倒して怪我をする等）と賠償の範囲（派遣された職員が利用者に怪我を負わせた等）に分けられる。出向元と出向先という考え方をして、労災に関しては出向元が、賠償に関しては出向先の保険が適用されるとのことだった。出向先の保険額が上がるといったデメリットがあるので、そこに同意してもらえる法人間では有事の際に人的フォローもしようということになった。訓練としては、川沿いのヴィラージュ川崎が職員の参集が出来なかったと想定して、山側の生田広場とよみうりランド花ハウスから介護職員を派遣して実際に排泄介助を行うというもので、10月7日に実施予定。実施してみえてくる課題があると思うので、訓練終了後に防災班会議を開催し、訓練をブラッシュアップしていく。

麻生：9月1日の川崎市総合防災訓練に向けて準備を進めていたのだが、台風接近のため中止となった。麻生班としては3回連続で訓練中止となっている。2月がコロナクラスター、6月が大雨警報、今回が台風。通常であれば年3回の訓練なので次回は2月の予定なのだが、1回もできていないので10月に実施した方が良いか検討中。金井原苑での訓練計画としては、物資移送訓練ではなく人的支援訓練にしようというところで、9時にE-Welfissを立ち上げて二次避難所立上げ訓練に伴い人的支援訓練を開始するという形で情報伝達訓練を行う予定だった。また、当日は吉野施設長が金井原苑にあるプロパンの自家発電の紹介をする予定だった。参加された方の参考になる企画を立てていただけない中止については残念。

（2）川崎市・横浜市災害プロジェクト 情報交換会／

9月18日（水）15時～16時30分

① 自己紹介（川崎1名欠席・横浜2名欠席）

委員18名・事務局5名

② 各市での取組み報告

- ・横浜市の福祉避難所情報共有システムをプロジェクターに映し出し説明
8月23日に行われた福祉避難所情報共有システム活用訓練について説明
- ・川崎市の情報伝達システム（E-Welfiss）をプロジェクターに映し出し説明
行政主導で行っている総合防災訓練及び情報伝達訓練について説明
- ・横浜市4ブロックと川崎市7区での取組みについて幾つか報告

③ 施設の立地条件ごとのグループワーク

ハザードマップ上の水害想定エリアとそれ以外のエリアで施設が分かれて情報交換
その後、全体で簡単に共有

(3) 今後の予定

災害対応に関する研修会 ／ 10月29日(火) 14時～

第4回災害プロジェクト委員会 ／ 11月6日(水) 10時～

2 人材プロジェクト委員会

(1) 第3回人材プロジェクト委員会 / 9月27日(水) 10時～11時

«協議概要»

① ハローワーク「福祉の仕事」説明会について

1) 9月13日「福祉の仕事」説明会

会 場：①ハローワーク川崎

②エポックなかはら

参加施設：2施設（特別養護老人ホームせせらぎ、社会福祉法人馬島福祉会）

参 加 者：①説明会18名（就職相談会14名）

②説明会21名（就職相談会15名）

(1) 川崎市社会福祉協議会（老人福祉施設協議会）について

福祉の仕事・資格の案内

(2) 施設でのケアの実際

講師：人材プロジェクト委員会 古敷谷施設長

(3) 福祉の現場からの声

司会：人材プロジェクト委員会 古敷谷施設長

2) 今年度の福祉の仕事説明会

日程	委員（南）	委員（北）
5/17（金）	<u>すみよし 和田施設長（講話①）</u> ※ハローワーク川崎	<u>等々力 岩壁施設長（司会）</u> ※福祉パルなかはら
7/19（金）	※ハローワーク川崎	<u>すえなが 平山施設長（講話①・司会）</u> ※福祉パルたかつ
9/13（金）	<u>大師の里 古敷谷施設長（講話①・司会）</u> ※ハローワーク川崎	※エポックなかはら
11/12（火）	※ハローワーク川崎	<u>しおん 伊藤施設長（司会）</u> ※福祉パルみやまえ
1/17（金）	※ハローワーク川崎	<u>多摩川の里 茶園施設長（司会）</u> ※福祉パルたま
3/14（金）	※ハローワーク川崎	<u>金井原苑 吉野施設長（司会）</u> ※福祉パルあさお

② 福祉の仕事紹介動画「介護の仕事って？」について

- ・職員からのコメント動画については茶園委員と、家族からのコメント動画については岩壁副委員長と日程調整の上、動画撮影を行う予定。時期が遅れてしまったが今年度中には完成させる予定。

③ 人材に関するアンケートについて

- ・前回の委員会で出された意見を反映させたものを確認。実施方法はフォームと紙媒体のハイブリット形式。アンケート班会議を日程調整の上開催する。

④ かわさき若者サポートステーション／コネクションズかわさきについて

- ・昨年度に引き続き11月27日14時から開催される「地元で活躍する企業との交流会」の協力依頼があった。一本釣りでも小林委員長に依頼があったため協力することにしたが、次年度は老施協を経由して依頼してほしい旨伝えた。
- ・昨年度参加した際の感想として、参加者の内1名しか福祉の仕事に関心を持っていなかった。過去の固定化されたイメージが払拭されていない。積極的に発信していく必要がある。
- ・昨年は4名の方から施設見学の依頼があった。今年度も相談者の居所近隣の施設での見学の依頼があるかもしれないのでその際は協力願いたい。

⑤ 総合研修センター研修アドバイザー意見交換について

- ・7月9日に行われた意見交換会について和田委員より報告。
- ・次年度以降の研修に活かしてほしいこと等あったら和田委員まで連絡してほしい。

⑥ その他

- ・特定技能の子が詐欺被害にあった。国に仕送りするために日本のお金を国のお金に換える人を今はFacebookで探し、その人に日本円を換金してもらい、ミャンマー版ペイペイのようなところに入金してもらい、そこから国に送金しているようなのだが、日本円を送ったタイミングで、相手方にブロックされてしまい連絡が取れなくなってしまった。日本の銀行法では友人ではない人に換金してもらうと、依頼した側も罪に問われるため、何もできなくなってしまった。どのような方法で国に仕送りしているかまでは知らなかったのだが、その辺りもフォローできるようにしておかないと、騙されている外国の方も多くいるのではないかと感じた。管理団体や銀行も正規ルートでと注意喚起はしているようなのだが…。

(2) 今後の予定

第4回人材プロジェクト委員会 / 12月3日(火) 15時～

情報交換について

1 情報交換について

施設長会の際に、会員施設同士で情報交換、意見交換が出来る時間が限られており、平成 30 年度より施設長会と合わせて実施している。

老人福祉施設「協議会」という名のとおり、施設同士等で情報交換、意見交換が出来るテーマを設け、設定テーマに基づく 30 分程度（目安）の情報交換を実施します。

(1) 会員施設から情報交換のテーマを募集

〔情報交換のテーマ例：看取りの実施方法、加算の取得状況、職員の雇用形態 等〕

(2) 正副会長等会議において、会員施設から集約した情報交換テーマを確認し、施設長会での情報交換テーマを検討します。

(3) 施設長会の開催通知に、情報交換の設定テーマを記載し各施設へ連絡。

各施設には必要に応じて資料等をご用意いただきます。

2 令和 6 年度第 4 回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：物価高騰に伴い事業者との関りで困っていること、不安に感じていること

内 容：給食業者からの値上げ交渉等

3 令和 6 年度第 3 回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：介護報酬改定を受けて取り組みが変化したことや新たに取り組むようになったこと

内 容：加算取得状況や夜間宿直の取り扱いの変化等について

4 令和 6 年度第 2 回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：経営政策研究ワーキングで協議した内容（人材育成）について

内 容：介護大学校、喀痰吸引研修等

5 令和 6 年度第 1 回施設長会の情報交換会のテーマについて

テ ィ マ：介護保険法の改正と報酬改定により示された国の方向性に特養はどう取り組む必要があるのか

内 容：病院と特養の連携、介護福祉士養成の取り組み

話題提供：社会福祉法人照陽会 特別養護老人ホームみんなと暮らす町 広嶋施設長

5 過去の情報交換会テーマ一覧

【令和3年度】

6月16日	アフターコロナの施設運営について
8月25日	新型コロナウイルス感染症への対応について
10月20日	With コロナの施設運営について
12月15日	科学的介護情報システム「LIFE」について
動画配信	介護職員処遇改善支援補助金について

【令和4年度】

6月15日	施設におけるコロナ対応について～第6波終了の今、第7波に備えて～
8月25日	新型コロナウイルス第7波における各施設の課題、問題点、各施設との連携方法
10月19日	I C T機器の導入について
12月21日	【中間報告】第3回神奈川県特養実態調査（川崎市版）について
2月15日	施設運営における補助金の有効活用について～大規模修繕・コロナ対策など～

【令和5年度】

4月19日	災害について（各区の防災班長・副長について）
6月21日	新型コロナウイルス5類移行に伴う対応の変化について
8月23日	派遣職員と人材紹介事業所について
10月18日	派遣職員と人材紹介事業所について～part2～
12月20日	容態急変等による救急対応や看取りの現状について
2月21日	人材確保・災害対策・感染対策・事業所契約・利用者トラブル等、各施設で今年度一番対応に苦慮した事例について

法定研修一覧

No.	研修番号	研修タイトル	講師	講義時間	研修詳細
1.認知症及び認知症ケアに関する研修					
1	s054	認知症ケアの理解	田島 利子	55分12秒	◎
2	s108	認知症及び認知症ケア	山田 美代子	34分28秒	◎
3	s142	認知症～認知症は病名ではない。ザックリしていて良い～	加藤 慶	27分30秒	◎
2.プライバシーの保護の取り組みに関する研修					
4	s044	プライバシーの保護・個人情報取り扱いの理解	田島 利子	21分14秒	◎
5	s098	プライバシーの保護・個人情報取り扱いの理解	山田 美代子	37分16秒	◎
6	s137	プライバシー保護～守秘義務と個人情報は違う～	加藤 慶	29分58秒	◎
3.倫理及び法令遵守に関する研修					
7	s100	法令遵守の理解	山田 美代子	24分25秒	◎
8	s138	倫理と法令遵守～難しい内容は結構大切～	加藤 慶	27分35秒	◎
9	15分-141	尊厳の保持	田島 利子	12分02秒	
4.事故発生の防止の研修					
10	s049	事故防止の知識	田島 利子	34分39秒	◎
11	s104	事故防止の知識	山田 美代子	26分53秒	◎
12	s141	情報公表対応研修 リスクマネジメント危機管理～ヒヤリハット≠インシデント～	加藤 慶	43分31秒	◎
5.緊急時の対応に関する研修					
13	s050	緊急時対応の理解	田島 利子	13分24秒	◎
14	s105	緊急時対応の理解	山田 美代子	8分39秒	◎
15	s144	緊急時対応～危機管理の実践をいかにおこなっていくか～	加藤 慶	31分36秒	◎
6.感染症の予防及びまん延防止のための研修					
16	s107	感染症・食中毒の予防及び拡大防止の知識	山田 美代子	37分45秒	◎
17	s135	新型コロナウイルス感染症5類になって変わる事	田島 利子	61分18秒	◎
18	s146	情報公表対応研修 感染症の予防～慣れたらおしまいという言葉のとおり～	加藤 慶	29分10秒	◎
7.食中毒の予防及びまん延防止のための研修					
19	15分-94	食中毒の知識	大瀧 厚子	17分06秒	
20	15分-169	介護事業所・施設で起きやすい食中毒	田島 利子	27分34秒	
21	15分-170	食中毒菌繁殖の3条件と食中毒予防の3原則		13分11秒	
8.身体拘束の適正化のための研修					
22	s102	身体拘束排除の知識（※施設向け）	山田 美代子	35分22秒	◎
23	s139	情報公表対応研修 身体拘束廃止～拘束とは何を指しているのだろうか～	加藤 慶	31分41秒	◎
24	15分-92	身体拘束の基礎知識	金沢 善智	13分05秒	
25	15分-104	身体拘束をしないための具体策	田島 利子	15分44秒	
9.介護予防及び要介護度進行予防に関する研修					
26	s043	介護予防の理解	田島 利子	31分29秒	◎
27	s097	介護予防の理解	山田 美代子	28分45秒	◎
28	s136	介護予防～介護予防はお年寄りたちより私たち～	加藤 慶	39分46秒	◎
10.医療に関する教育、研修					
29	s059	介護職のための病気と薬の基礎講座	後藤 佳苗	219分50秒	◎
30	s116	からだところの理解 ～医学的な知識を身に着け、利用者の置かれている状況を理解しよう～	兵頭 甲子太郎	203分06秒	◎
31	s 147	医療の知識～人を助けるためには必要となる～	加藤 慶	35分44秒	◎
11.看取り（ターミナルケア）に関する研修					
32	s038	ターミナルケア基礎研修	大瀧 厚子	272分10秒	◎
33	s079	看取りケア研修実践編	田島 利子	313分07秒	◎
34	s148	ターミナルケアと看取りケア～医療も福祉も大切にしているのものは同じ～	加藤 慶	37分36秒	◎
12.精神的ケアに関する研修					
35	s 149	精神的ケア～人はココロで動いている～	加藤 慶	31分24秒	◎
36	s 157	精神的ケア	田島 利子	43分13秒	◎
13.虐待の防止のための研修					
37	s048	虐待防止に関する理解	田島 利子	23分35秒	◎
38	s078	介護施設・居住施設の効果的な虐待防止の具体策	榊原 宏昌	92分02秒	◎
39	s140	高齢者虐待防止～他人は自分の思い通りにならない～	加藤 慶	33分24秒	◎
40	30分-186	障害者支援スタッフ向け研修1 障害者虐待防止と権利擁護 ※障害向け	梅沢 佳裕	34分39秒	
41	30分-187	障害者支援スタッフ向け研修2 障害者施設従事者における虐待発生要因 ※障害向け		41分14秒	
42	30分-188	障害者支援スタッフ向け研修3 障害者虐待防止関連の動向と一人ひとりの取り組み ※障害向け		43分03秒	

14-1.管理者向けBCP研修					
43	s088	BCP（事業継続計画）及び災害時対応研修	大塚 克巳	163分00秒	◎
44	s132	介護事業者のための 災害・感染症 BCPセミナー（入門編）	將司 覚	61分19秒	◎
45	s159	【障害福祉サービス事業所向け】非常災害時の対応 ※障害向け	山田 美代子	142分24秒	◎
46	30分-179	介護サービス事業所の防災対策とBCP 1 BCPって何ですか？	渡邊 真一	34分22秒	
47	30分-180	介護サービス事業所の防災対策とBCP 2 実用的なBCPをつくる		29分28秒	
48	30分-181	介護サービス事業所の防災対策とBCP 3 災害による被害ケース別の対策		18分15秒	
49	30分-182	介護サービス事業所の防災対策とBCP 4 BCP発動		23分13秒	
50	30分-183	介護サービス事業所の防災対策とBCP 5 介護事業所が準備すべき防災備蓄品		28分35秒	
51	30分-185	介護サービス事業所の防災対策とBCP 7 ご利用者に対する減災の取り組み		14分10秒	
14-2.職員向けBCP研修（非常災害時の対応に関する研修）					
52	s145	情報公表対応研修 非常災害時対応～備えあれば憂いなしという日本古来からの言葉～	加藤 慶	30分19秒	◎
53	s156	介護BCP ※非常災害時対応と感染症対策の両方のテーマが含まれています	田島 利子	69分01秒	◎
54	a83	BCP対策 災害時の電源確保のために	將司 覚 山口 直輝 篠原 由喜男	75分17秒	
55	a105	BCP研修 排泄編	新妻 普宣 芳井 孝典 永武 宏樹	76分07秒	
14-3.職員向けBCP研修（感染症対策に関する研修）					
56	30分-184	介護サービス事業所の防災対策とBCP 6	渡邊 真一	12分43秒	
15.褥瘡対策に関する継続的教育					
57	15分-23	褥瘡発生のメカニズムとずれについて	加島 守	15分06秒	
58	15分-173	褥瘡のできやすい箇所	加島 守	14分38秒	
16.ハラスメント対策研修					
59	s021	ケア従事者のためのハラスメント構造の理解とその対処法	品川 博二	157分55秒	◎
60	15分-134	パワハラ防止を防止するための具体策	榊原 宏昌	10分43秒	
61	15分-135	パワハラといわれなかったための育成・指導		10分19秒	
62	15分-165	カスタマーハラスメント対策～利用開始前の説明～	渡邊 信介	11分01秒	
63	15分-166	カスタマーハラスメント対策～日頃から出来ること～		11分52秒	
17.入浴					
64	M14-01	【介護技術動画】一般的な浴槽への出入りの仕方	田島 利子	10分56秒	
65	M14-02	【介護技術動画】一般的な浴槽（湯あり）への出入りの仕方（麻痺なし）		6分07秒	
66	M14-03	【介護技術動画】一般的な浴槽への出入りの仕方（右片麻痺あり）		11分40秒	
67	M14-04	【介護技術動画】一般的な浴槽（湯あり）への出入りの仕方（右片麻痺あり）		4分52秒	
68	M14-05	【介護技術動画】泡の作り方（固形石鹸）		3分40秒	
69	M14-06	【介護技術動画】洗体と洗髪の仕方		15分00秒	
70	M14-07	【介護技術動画】ベッド上での足浴の仕方		8分32秒	

[リンク](#)

■令和6年度 Zoomオンライン研修 年間予定（加入者は受講料 無料）

介護保険最新情報 ポイント解説

動画No.	テーマ名	講師名	講義時間
a98	(1/19) 令和6年度介護報酬改定を受けて【第1回】 ①令和6年度介護報酬改定の現在地とこれから ②サービス別！介護報酬改定の概要【通所系／短期入所／多機能系】 ③サービス別！介護報酬改定の概要【施設系／居住系】 ④サービス別！介護報酬改定の概要【居宅介護支援／訪問系／福祉用具】 ⑤全サービス共通（処遇改善含む）／様々な変化への対応	榊原 宏昌	96分50秒
a104	(2/15) 令和6年度介護報酬改定を受けて【第2回】 ①介護報酬改定の現在地とこれから ②サービス別介護報酬改定事項【通所系サービス・短期入所・多機能系】 ③サービス別介護報酬改定事項【施設系サービス・居住系サービス】 ④サービス別介護報酬改定事項【居宅介護支援・訪問系サービス・福祉用具】 ⑤全サービス共通（処遇改善含む）	榊原 宏昌	94分43秒
a113	(3/22) 令和6年度介護報酬改定を受けて【第3回】 ①サービス別！介護報酬改定解釈通知編【通所系】 ②サービス別！介護報酬改定解釈通知編【短期入所／多機能系】 ③サービス別！介護報酬改定解釈通知編【施設系／居住系】 ④サービス別！介護報酬改定解釈通知編【居宅介護支援／訪問系／福祉用具】 ⑤サービス別！介護報酬改定解釈通知編【全サービス共通（処遇改善含む）／変化にどう向き合うか？】	榊原 宏昌	98分36秒

第 2 2 回かながわ高齢者福祉研究大会での発題数について

◆第 2 2 回大会から大会テーマに即した内容の研究発表・介護技術発表を出すことになりましたので意向調査をさせていただきました。ご協力ありがとうございました。

大会テーマ：2040 年を魅力的な福祉・介護の未来に変える

○研究発表

施設名	研究発表題数	備考
金井原苑	1	
片平長寿の里	1	
新緑の郷	1	
等々力	1	
潮見台みどりの丘	1	
夢見ヶ崎	1	
合計	6	

○介護技術発表

夢見ヶ崎	1	
合計	1	

「ふくしの出張講座」

(1) 経過

社会福祉施設（法人）の「地域における公益的な取組」として、施設（法人）の持つ専門性やノウハウを活用し、施設部会（社会福祉施設）が講師可能なメニューを地域の方々へ提示し、出張講座を行う。

- 令和3年度にパンフレット作成
- 令和4年度からパンフレット配布

※全国的な動きとして

- ・令和2年 ともに生きる豊かな地域社会の実現に向けた共同宣言
～社協と社会福祉法人のさらなる連携・協働へ～
- ・令和3年 社協と社会福祉法人・福祉施設の連携・協働推進方策
(社会福祉法人全国社会福祉協議会)

(2) 令和6年度の依頼状況等

①団体：南原小学校 ※高津区社協

対象：小学校4年生 2クラス 44名

内容：障害について 他

日時：6月21日（金）9時30分～12時

講師：障害者福祉施設協議会（あかしあ園）※途中で変更

②団体：小田地区民生委員児童委員協議会 ※川崎区社協

対象：障害者福祉部会 約10名前後

内容：障害について 他

日時：6月25日（火）18時～19時

講師：障害者福祉施設協議会（障害福祉施設おおしま）

③団体：下小田中小学校 ※中原区社協

対象：小学校4年生 5クラス 153名

内容：高齢者について、車椅子体験について

日時：7月4日（木）9時30分～12時

講師：老人福祉施設協議会（すみよし・せせらぎ）



④団体：J Aセレサ川崎 ※宮前区社協

日時：令和6年8月2日（金）10時より

会場：J Aセレサ川崎 本店 1階 102会議室

内容：育休・産休中職員同士の交流会

育児・保健関係の専門講師による講話

各種相談受付・レクリエーション 等

講師：保育協議会（みやまへの杜保育園・たつのこのはら保育園
児童・母子福祉施設協議会（川崎愛児園）

⑤団体：田島小学校 ※川崎区社協
対象：小学校4年生 3クラス 84名
内容：障害について知りたい 他
日時：8月27日（火）9時30分～12時
講師：障害者福祉施設協議会（たじま）

⑥団体：はるひ野中学校 ※麻生区社協
対象：中学校3年生 3クラス 118名
内容：施設概要・利用者の生活・中学生に知ってほしい福祉のこと
日時：9月9日（月）14時5分～（40分程度）
講師：老人福祉施設協議会（金井原苑）

⑦団体：宮前第2地区社会福祉協議会 ※宮前区社協
対象：障害児者福祉委員会 約15名
内容：これから相談 前回）障害について 他
日時：9月13日（金）13時～
講師：障害者福祉施設協議会（ファームランドながお）



⑧団体：古市場小学校 ※幸区社協
対象：小学校4年生 70名
内容：高齢者について、障害者について 等
日時：9月20日（金）10時～
※その後のスケジュールについては、今後相談
講師：老人福祉施設協議会（みんなと暮らす町）
プログラムー①講話、②福祉用具体験、③デイ利用者との交流（各15分）
障害者福祉施設協議会（小向このはな園）

⑨団体：東小倉小学校 ※幸区社協
対象：小学校4年生 4クラス 131名
内容：妊婦体験について、障害（者）について
日時：10月28日（月） 他
講師：保育協議会（どリーむ東小倉保育園）
障害者福祉施設協議会（こぶし園） ※区内施設への協力依頼

⑩団体：中野島地区社協 ※多摩区社協
対象：地域の子育て世帯10組程度
内容：子育ておしゃべり会
日時：11月5日（火）10時～12時
講師：保育協議会（中野島のはら保育園）
児童・母子福祉施設協議会（かわさきさくら児童家庭支援センター）

⑪団体：中野島中学校 ※多摩区社協

対象：中学２年生 ２４６名（他職種にも打診するため全員の受入ではない）

内容：高齢者福祉施設での職業体験

日時：１１月１３日（水）・１４日（木）※可能であれば２日連続

講師：老人福祉施設協議会

（生田広場、生田まほろば、菅の里、太陽の園、多摩川の里）

⑫団体：野川中学校 ※宮前区社協

対象：中学２年生 １０名

内容：高齢者福祉施設での職業体験

日時：１１月１４日（木）・１５日（金）※可能であれば２日連続

講師：老人福祉施設協議会（寿楽園、富士見プラザ、プラチナ・ヴィラ野川）

令和6年度8月～9月食糧支援対応報告

(令和6年9月30日現在)

夏休み期間中には、食糧品等のご寄付をいただきまして、誠にありがとうございます。数多くの温かいお気持ちに、心から感謝申し上げます。

8月は多くの生活に関する相談が寄せられ、その中には食糧支援を必要とする内容も多くありました。食糧支援の多くが、見守りや子ども食堂などへの支援となりましたが、本取組があったことから柔軟に対応できました。皆さまにご支援をいただき、必要な方に食糧を届けることができましたこと、重ねて感謝申し上げます。

9月末日時点での報告をさせていただきます。

なお、今回いただいた食糧のうち、賞味期限が長期のものにつきましては、年末の支援のためにストックさせていただきます。

1 支援食品数・世帯 1,434品・50世帯

2 主な用途

- (1) 制度（生活保護等）への繋ぎ
- (2) 収入がないなど、困窮世帯への対応
- (3) ライフラインが止まりかけている世帯への緊急的な支援
- (4) 区社協はじめ相談機関のストック
- (5) 見守りのツール

3 配布先（21ヶ所 ※累計）

- (1) 区役所
- (2) 地域相談支援センター
- (3) 困窮者支援機関
- (4) 居宅介護相談支援事業所
- (5) こども食堂
- (6) 区社協
- (7) 市社協

4 ご寄付いただいた方（26 団体）

市内社会福祉法人・施設、企業等 ※順不同・敬称略

【保育協議会】

- ・中原保育園
- ・あすいく保育園
- ・麻生ゆりのき保育園
- ・登戸ゆりのき保育園
- ・星搓
- ・ティンクル上野川保育園

【老人福祉施設協議会】

- ・新緑の郷
- ・富士見プラザ
- ・片平長寿の里
- ・幸風苑
- ・桜寿園
- ・鷺ヶ峯
- ・高齢者福祉施設すえなが

【障害者福祉施設協議会】

- ・川崎市視覚障害者情報文化センター
- ・もえぎの丘
- ・しんゆり
- ・白楊園
- ・障害者支援施設（通所）みやうち
- ・あーる工房
- ・KFJ 多摩はなもも
- ・川崎授産学園

【児童・母子福祉施設協議会】

- ・至誠館さくら乳児院（かわさきさくら児童家庭支援センター）
- ・川崎愛児園

【その他】

- ・グリーンケア cafe あかり
- ・セラニーズエレクトロニクスマテリアル株式会社
- ・富士通

【事務局・お問合せ先】

川崎市社会福祉協議会 総務部 企画調整室

TEL : 044-739-8714

e-mail:seisaku@csw-kawasaki.or.jp

令和 6 年度 神奈川県社会福祉施設協議会施設部会老人福祉施設協議会
第 2 回委員会

日 時：令和 6 年 9 月 2 7 日（金）1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分

会 場：神奈川県社会福祉センター

※改選期に伴う人気初回の委員会のため各委員より自己紹介

挨拶：西山会長

議事進行：西山会長

■議題

- 1 第 22 回かながわ高齢者福祉研究大会の進捗状況について
⇒ 事務局より第 1 回実行委員会検討内容について説明。
各ブロックの推薦締め切りが 2 月中旬だと厳しいので、後ろ倒し（3 月下旬頃）で調整予定。それに伴い、第 3 回実行委員会と第 4 回実行委員会を 1 度にまとめる予定。
- 2 高齢者福祉施設 PR 委員会について
⇒ 事務局より説明。第 1 回の委員会を 1 1 月 6 日か 8 日に開催予定。
→ 1 1 月 8 日（金）午後の開催に決定。
これまで高齢大会と合わせて一般向け PR も行っていたが、別物として切り離して一般向けの情報発信を行っていく。
「特養 1 0 0 名待機」のようなイメージを払拭するためにも、まずは PR 展開の基地を作っていく。
- 3 課題別部会について
⇒ 事務局より、9 月 2 日に開催した災害対応に関する部会について説明。
災害対応に関する第 2 回研修会として、令和 7 年 1 月 3 0 日 1 3 時 3 0 分から福祉マネジメント&デザインの水田氏を講師とした BCP シミュレーション研修を計画。
- 4 各ブロックの取組状況について
⇒ 各ブロック事務局より資料に基づいて説明。
- 5 その他
⇒ 参加委員から自施設や所在エリアの近況を報告。
都市部への人材の流出や人材育成の難しさ、災害発生時の協定、物価高騰等についての話が多い。

第 22 回かながわ高齢者福祉研究大会 第 1 回実行委員会 検討内容

【大会運営担当】

1. アーカイブ構築

①資料は各ブロックで確認 ②アーカイブ用動画は各施設で撮影 ③動画保存期間 ④アーカイブ視聴会費

2. 開催要項の検討(仕様確定)

①簡易プログラムと協賛企業広告チラシ、アンケートのみで良い ②アンケートは回収率を考え紙ベース継続
③アンケート回収率を上げるためにノベルティ

3. 受付業務委託の検討

①受付は QR コードリーダー ②チケット忘れ対応要員 1 人常駐 ③受付完了後、順に資料一式取ってもらう

4. 各担当の必要係員数の検討

①受付 QR コードリーダーなら 2 名 ②介護技術発表は部門次第

【研究発表】

1. 表彰について

①優秀賞・アワードの創設は有り ②審査規程はこれまでのもので良い。しかしながら、審査員の基準合わせは必要
③審査員 3 名(A 養成校 B 施設長 C 中堅職員)→(A 養成校 B 施設長 C 他の立場(行政、社協、新聞社…))

2. 研究発表の募集後のカテゴリー化

①テーマが広いので上がってきたところで振分 ②海側エリアへの人の流れを作りたいのでメイン題目は海側へ

3. 事前説明会・発表内容ブラッシュアップ研修会の検討

①ブロック推薦の前に倫理的配慮や審査基準等を伝えられると良い ②説明会は Zoom でも良い。または動画
③倫理的配慮については小田原・足柄地区福祉施設連絡会資料を参考にする ④ブラッシュアップ研修会は有り
⑤発表題数は 32 題とする

【介護技術発表】

1. 発表プログラムについて

①募集題数は(A 各ブロックから 2 題で 8 題と B ブロックにとらわれず 8 題)最大 16 題とする
②発表時間は 15～20 分。研究発表の発表時間と合わせた方が良い
③発表テーマは、従来の部門の他、ICT や生産性向上を加える。また、LIFE を活用した食事摂取量アップなど、
2040 年に向けて、ロボットやテクノロジーを駆使した介護技術発表とする
④発表会場は、311 と 312 に変更する
⑤会場に持ち込めない備品や機材がある場合は、事前に施設でビデオ撮影し、当日流す(スクリーンのみ貸与)
⑥評価者は偏らないようにする

【協賛出展】

1. 企業広告について

①企業側のメリットがないと協賛出展も広告も無い ②インスタ開設、企業広告、15 秒動画
③発表の合間に会社 PR 広告 ④施設長と名刺交換 ⑤競合避け種別に絞って募集

2. 料金設定について

①海側もエレベーター側も同じ料金にする ②研究発表会場の真ん中のドアの行き来は無し
③海側は人気のある発表テーマに ④海側に 7 ブース増やす(全部で 35 ブース)

3. 次回までの宿題

①出展企業情報や大会冊子の金額など検討資料を事務局が用意 ②企業のメリットを考えてくる

第22回かながわ高齢者福祉研究大会 今後のスケジュールについて(案)

日 時	内 容	備 考
10月15日(火) 10:00~12:00	第2回実行委員会	第1回実行委員会の検討を受けて、さらに詰めていく。開催要項、受付業務委託の検討、審査員や審査基準の擦り合わせ、協賛企業メリット出し 等
10月下旬	新大会についての説明会開催？	新たな方法となる大会のテーマや募集内容について説明会を開催するかどうか。倫理的配慮等についても説明。
12月上旬	第3回実行委員会	開催要項の確定 各ブロックの状況確認、ホームページ及びアーカイブ構築の整理 等
2月中旬	各ブロックの推薦締め切り	各ブロックに照会し、それぞれの推薦を集め、全体の状況を確認する。
2月下旬	第4回実行委員会	発表内容によりカテゴリー化の整理、発表施設との調整事項整理、周知方法確定 等
3月中旬~下旬	事前説明会 発表内容ブラッシュアップ研修会	説明会、研修会の内容検討。講師調整。
4月中旬~5月中旬	参加申込受付期間 企業協賛受付期間	
4月下旬	第5回実行委員会	係員の役割及び人数割出、事前準備の内容確認 等
4月下旬	抄録の登録	
5月下旬	パワーポイントデータの送信 アーカイブ用動画締め切り	
6月中旬	第6回実行委員会+係員説明会	最終確認。係ごとに、細かい部分まで確認を行う。
7月2日(水)	大会当日	パシフィコ横浜 3 階
9月下旬	第7回実行委員会	大会振り返り・表彰式

高齢者福祉施設 PR 委員会について

◇経 緯

かながわ高齢者福祉研究大会は、これまでの経過の中で研究発表に加え、介護技術発表の開催や就職相談会のブース設置、施設紹介ブースの設置など、職員の質の向上及び情報共有を目指す当初の目的にプラスして人材確保や一般市民への理解・普及などの目標も持って運営してきました。

しかしながら、今後のあり方検討会では、目的の違う複数の要素を包含して大会を運営するより、それぞれの目的をはっきりして、分けて検討、企画を行っていく方が良いとの意見が多くだされ、

①かながわ高齢者福祉研究大会実行委員会と②一般向け（PR）の大会検討チームの2つに分けて検討していくこととなりました。

上記を受け、本委員会の目的である「PR」として、かながわ高齢者福祉研究大会についても行うのか、それについては、大会実行委員会で行うのか、整理が必要。

その上で、「PR」を考えていくのであれば、一般市民への理解・普及を一番の目的とする。

一般市民への理解・普及…正しい知識・現状の情報提供（例：入所状況、全県の情報、他県との比較、有料職業紹介の実態や有料老人ホームとの違いなど）

なお、人材確保については総合的に見ればPRによりそれに繋がるが、そこは二次的な目的とする。
よって、人材確保等部会との連携は当面は行わない。

◇メンバー

⇒当初は4人で始め、各ブロックの事務局に呼びかけメンバーとして入ってもらう。

神奈川県 森 弘 樹（ヒューマン施設長）

横浜市 牧 野 裕 子（第2新横浜パークサイドホーム施設長）

川崎市 白 井 裕 一（特別養護老人ホーム富士見プラザ施設長）

相模原市 大久保 祐 次（社会福祉法人蒼生会 特別養護老人ホームモモ理事長）

+各ブロック事務局

◇検討の方向性について

・一般（就職希望者を含む）向けに高齢者福祉施設の魅力や入居までの実際の手続きや期間、プロとして働く介護職員の日常などを積極的にPRしていく機会をどう作っていただけるかを検討する委員会となる。

・イベント開催の場合は、その規模は県全体というよりは、ブロック毎あるいはもう少し狭い範囲（県の場合、9ブロック、政令市の場合は各区など）での開催とし、運営は各ブロック事務局にお任せする。

・県老協はその運営の後方支援的な役割で、かながわ高齢者福祉研究大会での優秀発表の調整などを担うこととする。

⇒当面は、ホームページによる情報提供を目指し、イベント開催についてはその後の検討事項とする。

・県老協ホームページ等により PR 活動の工夫を図ることとする。

⇒①ホームページの設置および運用方法について

(ホームページにどう呼び込むか、二次元コードやInstagram、TikTok、15 秒動画の活用等)

②ホームページの構成およびコンテンツについて

(まずは第 1 回の委員会での点を委員からの意見をもとに出し合っていくこととする)

③プロが作る力、魅せ方の違いを取り入れる

(ホームページ制作会社 3 社程度、ホームページ素材制作会社 3 社程度ピックアップ)

④一般からの疑問・問題提起

(どうやって声を拾っていくのか、またイメージ作りも含めどのように情報提供していくか考える)

(参考:施設での庭の活用を世界的にまとめた本、認知症の方の案内表示のしかた等)

(キーワードは“パブリック”“ニュースリリース”…)

⑤PR 戦略

(本日の委員会での内容を受け、目的を明確にして策定していく。マスコミもリスト化する)

(ホームページの構成として、高齢者施設について知りたい方、高齢者施設で働きたい方、研究大会に興味がある方など、そこは拡張の余地を前もって考えておく)

◇その他

第 1 回の委員会開催を 11 月 6 日(水)か 11 月 8 日(金)を候補日とする。

会議報告書

会議名	老人福祉施設協議会 令和6年度第2回災害対応に関する部会	報告者 坂本
開催日時	令和6年9月2日（月） 午後2時から午後4時まで	
開催方法	Zoomを使用したオンライン開催	

概 要

《出席者》前田副会長、委員7名（欠席：横井委員）、県社協事務局 4名

進行：碓井リーダー

■議題

1 災害対応に関する研修会（6/27 開催）の振り返りについて

事務局より資料に基づき報告を行った。

- ・グループワークや発表時間を取ってほしいと意見もあったが、人数が絞られてしまうため、今回の研修会はこの形式で良かったのでは。次回以降、グループワーク等の時間を取り入れられると良いだろう。

2 各ブロックでの取組状況について

○県域

- ・県高齢協の研修会を10月1日に、能登半島地震の被災施設と被災者受入施設の施設長を招きシンポジウムを行う予定。また台風10号に関しては、施設近隣の境川が増水し危険な状況になる場面があった。
- ・能登半島に実際に行って体験したことは、概要を地区の会議で報告している。8月中旬に発生した地震では、震源地が施設から2km程と近く大きな影響はなかったものの、停電、エレベーターやガスが止まる等した。発災時のフローチャートを作成しており、実際にチェックを行いながらエラーが起きれば見直しを行った。40名程の職員との連携について、震災のレベルに応じてどの職員が出勤するか、決め事として積み重ねていくことができた。

○横浜

- ・カード式のBCPのシミュレーション研修を8月22日に実施した。（資料：議題3別添1参照。）策定済みのBCPが実情に合っているか確認でき、また他施設と情報交換できる良い機会となった。また福祉避難所の情報共有システムの活用訓練を実施した。11月頃には部会として熊本県に県外研修に行く予定。被災施設のBCP整備状況や当時の状況を改めて確認しようと考えている。
- ・ケアプラザは福祉避難所の側面もあり、考え方の整理を8月15日に横浜市と行った。BCPのシミュレーション研修については、11月15日もしくは12月13日にケアプラザ向けを実施する予定。
- ・横浜の災害プロジェクトでは、9月18日に市の担当者や川崎市と意見交換をする予定。部会としては障害等も含めて共同で訓練等しながら、隣接市と歩調をとって、輪を広げているところ。

○川崎

- ・9月18日に横浜市と情報交換予定。昨日、総合防災訓練にて、情報共有や物資輸送訓練を計画していたが、台風の影響で中止となった。また区ごとに物資の輸送訓練を定期的に実施している。そのほか多摩区で、職員の派遣訓練を10月に行う予定で、実際に派遣先の業務に入る。派遣するうえでの必要な情報が見えてきたら、以前作成した受入れマニュアルのブラッシュアップをしていく。
- ・物資輸送訓練について、宮前区では8月に実施した。同じ区内で平時の状況でも、物資を施設に運ぶの

に車で 20 分かかる等、状況を知ることができ、地域ごとにグループを作った方が良いのではといった意見が挙がった。次回は 11 月 15 日に行う予定。また 10 月 29 日に BCP の策定の共有と、こういった研修訓練を実施すべきかといった内容で研修会を実施予定。

○相模原

- ・災害対策部会を 8 月 9 日に、福祉避難所の伝達訓練を実施した。HP で市の高齢協が情報を集める方式で、災害時にネット回線が機能しなかった場合の対策として LINEWORKS 等を検討している。次回は 9 月 20 日、福祉避難所の協定については実態に合っていないとの声もあり、そのすり合わせを行う予定。また、避難所運営ゲーム（HUG ゲーム）を会員団体がそれぞれ行えるようにカード貸出を行っている。

○質問

- ・川崎の物資輸送訓練の目的はどんなところにあるのか。
 - 他法人との関係強化が目的。地区によっては横のつながり作りが難しい。区単位で防災班を作ったり、互助共助の部分で手助けしていこうとの意識はあるが、そこから進展をしていない状況だったので、横のつながり作りになれば、というのが一番の目的。
 - 自施設で補う物資を 100%とすると、平時から 110%や 120%など多めに保管して、少なくなった施設に提供することを想定しているのか。
 - そこまでの調整はできていない。例えばコロナ禍の際、マスクが不足している施設もあれば、潤沢に在庫がある施設もあり、実際に貸し借りが発生していた。そういった状況を想定している。また食料等は 3 日分程度しか施設に保有していないことも多く、それをどう回していくかも課題に感じているが、まずはきっかけ作りとして実施している。

3 第 2 回研修会について

事務局より資料に基づき説明を行った。

<研修会の内容について>

- ・研修会アンケートでは、BCP への関心が強いと感じる。施設の「あるある」や防災ネットワークについては、研修会で実施するには講師の選定など難しいか。DWAT も興味はある。BCP のシミュレーション訓練は、横浜と内容が重なるという懸念がある。
- ・実地訓練セミナーについては、広い会場が必要と思うが、人数の想定はあるか。
 - （事務局）想定は 30～50 人程度。会場規模によって、どのくらいのブースを設定するか決め、どういった内容を訓練で詰めるか、関心の高いところを選択していく。
 - コアメンバーの選定など、講師との事前打合せを密に行う必要があるか。
 - 事前打合せ 1 回、当日リハを 1 時間半行うので、コアメンバーはかなり詰めて実施するイメージ。
- ・対策本部長の育成が重要。対策本部長の出勤までに時間がかかる場合に、担える職員をどう配置できるか。的確な指示を出せるようにと考えると、横浜で実施したシミュレーション訓練は良いと感じる。「あるある」や今更聞けないが他施設ではどう対応しているのか等、意見交換にはなってしまうが、そういった情報を共有できると良い。
- ・横浜で実施した研修は、4～5 名のグループワークで、施設長の参加者も多く意見交換は盛んにできた。有事の際に指揮命令系統、いかににかじ取りできるか、ポイントとなるところだろう。
- ・実地訓練セミナーは、ある程度 BCP が完成している施設向け、実践的で上級者向けのように感じる。例えば来年度の方がより実効性があるのでは。カード式のシミュレーション訓練は、BCP に不足があったり見直したりしている今の時期でも、内容が初歩・初級レベルでちょうど良いのでは。

- ・自施設の BCP は、平成 25 年頃に作成したもので、そこから進歩していない。BCP のどこに何を書いてあるか把握していないと、様々な状況に対応できない。災害対策委員に配布しているが、しっかり読んでいるかは確認しないとイケない。必ずしも事務長等が居る時に災害が起きるとは限らず、現場にいる人が最初のアクションを起こす必要がある。訓練も含め緊急時に備えて、日頃から慣れていく必要がある。カード式のシミュレーション訓練は、取り組みやすいレベルで、施設長以外の主任やリーダーといった職員も、自施設の BCP を読んできて参加できるだろう。
 - ・相模原の避難所運営ゲーム（HUG ゲーム）は一般の人が避難してくることを想定している。横浜で実施したシミュレーション訓練は、実際の施設運営に近いことを経験できそうで価値があると思う。
 - ・カード式のシミュレーション訓練は、施設の運用を想定した内容になっているのか。
→入所施設を想定されているため、横浜ではケアプラザ向けを 11 月に別途開催する。
 - ・意見交換はメリットだが、グループワークで参加人数が絞られることは懸案事項。
 - ・シミュレーション研修は地震を想定したもので良いか。→了
- ⇒カード式のシミュレーション研修で、横浜市社協の研修会で講師を務めた水田氏に打診することです。

<開催時期について>

- ・開催時期はいつ頃を考えているか。
→（事務局）12 月開催を検討しているが、講師と会場の空き次第で決定する。
 - ・参加希望人数が多い場合は、2 回に分けて実施することも検討が必要かもしれない。
- ⇒12 月開催として調整を進めることでした。

4 その他

<情報共有システムに関して>

- ・土砂災害や水害等も、部会で取り組みをした方が良いと感じる。福祉避難所の情報共有システムは、そういった場合に活用はできるか。
→基本的にはできないと認識している。市との意見交換の際に、互助に役立てるために活用できないか、聞いてみたい。
- ・（事務局）福祉避難所の情報共有訓練は、ベースの仕組みは市が用意しているのか。どのような情報が共有されているのか。
→現在は市が運用しており、福祉避難所を開設するかどうかメイン。被災状況を情報共有しており、物資の状況や道路冠水等も掲載し、メンバーは常時閲覧できる。元々は部会のメンバーで独自に運用していたが、システム構築や費用面の課題から市に相談したところ、市のシステムを使うことになった。NTT が開発したシステムで、県も同様のシステムを持っていたと記憶している。
→過去に県にも問い合わせたが、県で集約した情報を他に流用はできないと断られた経緯がある。
- ・（事務局）県域では、情報共有訓練等は行っているか。
→福祉避難所は県より市が中心となっていることもあり、県域としての訓練等はしていない。

<今後の部会の取組みについて>

- ・物資のやりとりについては特定のエリアが壊滅的になると、例えば能登の場合は金沢から支援に行った。県内でも市内のみの共助は難しく、市を跨いだ支援を考える必要があると感じた。
- ・まずは身近なところでの共助から、全体として情報共有ができるシステムが整うと共助しやすい。各ブ

ロックで発言しつつ、全県として統一していく取組みが必要。

- ・福祉施設の災害対策について、県はどこが所管課として、関わっているのか。

→（事務局）介護職員の応援派遣については、全社協が厚労省より委託を受け、中央センターにて把握、集約して現場のマッチングにつながっていた。県の場合は、高齢サービス課が担当。中央センターは職員の応援派遣のみで、物資は、特に担当課はないと認識している。情報共有が鍵になるので、どう共有していくか課題だろう。

- ・川崎市で実施する、職員を他の施設に派遣する訓練について、ぜひ実施結果を報告してほしい。

→現時点で共有できることとして、介助中に利用者に何かあった場合の保険適用について。賠償の場合は出向先の保険が適用され、労災の場合は出向元の労災が適用、との回答が代理店からあった。保険関係はデリケートなこともあり足踏みをしている状況だったが、そういった話が分かり実施の後押しになった。今回の訓練では川沿いの1施設に、ハザードマップで対象外の施設から2名派遣する予定。次回部会にて報告したい。

<DWAT に関して>

- ・DWAT に入っておらず、敷居が高いようにも感じている。平時からギリギリの人手で、災害時に職員を出せるか悩ましいところ。改めて加入を検討するべきか。県内でどのくらいの施設が加入しているか。研修会アンケートにて、DWAT が挙がっていたが、本部会で取り組んでみても良いのでは。

→（事務局）現在は200名を少し超えるチーム員がいる。協力団体や職能団体に所属している人が専門職として登録、その人が施設に所属している場合もある。協力団体には加入していないが施設として協力したい場合に、単独で加盟しているのは15前後かと思う。能登半島地震では、1.5次避難所に派遣され、現地の情報収集等も行った。今回が神奈川 DWAT として初めての派遣で、またほぼ全ての県の DWAT が能登に派遣され、経験を積んだ状況。

- ・高齢者施設では、どのくらいの施設が加盟しているか。

→（事務局）10に届かない程度だと思う。

<情報共有>

- ・県高齢協の藤沢地区にて9月26日に「市民トリアージ研修会」を実施予定。※追加資料。

<その他>

- ・次回部会は12月研修会に向けて、10月下旬から11月上旬に開催予定。

以上

老人福祉施設協議会第 1 回研修会
「高齢者施設における自然災害への対策―事業継続計画 (BCP) の運用を考える―」
アンケート結果【抜粋】

■参加者数 64 名（アンケート回収 43 名）

1. 研修会の内容について

- BCP の導入、訓練の実施方法や職員への周知方法等、具体的な話を聞くことができて良かった。
- BCP 策定後の運用や訓練が重要であり、発災後の状況を時系列で整理する大切さを認識した。
- BCP の見直し、活用していくためのヒントを得られた。
- 職員に関心を持ってもらうこと、職員の育成の必要性を感じた。
- 訓練（シミュレーション、机上、実習）の情報が得られて良かった。
- PDCA を繰り返していくことが大切と思った。
- 現地の写真を交えた災害時の状況、法人内外の連携事例を知ることができ、参考になった。
- 感染症についての話も参考になった。

【考察】

- 具体的な事例を交えた研修内容であったことから、自施設の参考になるという意見が多かった。
- BCP 策定後のやるべきことを懸念していた施設が多く、今後の運用に役立つとの意見があった。
- 特に、時系列で状況を整理して考えていく重要性を知ることができたという意見があった。
- 訓練についての関心が高く、情報が得られた、繰り返していくことが大切との意見があった。
- 感染症に関する内容についても、参考になったとの意見があった。

2. 研修会全体を通して

- 研修時間が短いように感じた。
- マイクの音量が小さかった。
- 質疑応答の時間が豊富にあり良かった。
- グループワークと発表の時間があってもよかった。

【考察】

- 研修時間が短いとの意見がある一方、丁度良いとの意見もあった。
- 会場に対してマイク音量が小さい、プロジェクター台数を増やしては、との意見があった。
- 質問用紙を用いた質疑応答の方法は、時間が有効活用できた等、好意的な意見があった。
- 参加者同士での意見交換の場が欲しいとの意見があった。

■これまでの災害対応に関する研修会

年度	開催テーマ	講師	出席者
元年度	災害時対応（市民トリアージ）	NPO法人災害・医療・町づくり 笠原 英男 氏	41 名
3 年度	介護現場と災害対応	(公社)全国老人福祉施設協議会 災害対策委員会 委員長 種岡 養一 氏	65 名 (オンライン)
4 年度	高齢者施設における風水害への備え ーBCP の策定と運用を考えるー	(株)C o A c t 代表取締役 渡嘉敷 唯之 氏	59 名
6 年度	高齢者施設における自然災害への対策 ー事業継続計画(BCP)の運用を考えるー	(株)C o A c t 代表取締役 渡嘉敷 唯之 氏 (福)同愛会 理事長 菊地 月香 氏	64 名

■前回委員会（R6. 5. 17 開催）での意見

- BCPのシミュレーション・監査対策
- 感染症に関するBCP
- 能登半島地震の被災地での状況等を踏まえた研修
- 互助共助の取り組みとして、周囲との連携につながるテーマ
→地域ごとの特性があり、各地域での取り組みがこれからというところ。
BCP策定、シミュレーション訓練や研修の一連の次は、連携が課題。
エリアごとのまとまった方針ができてから、県全体の連携を進めることとなるだろう。

■研修会の参加者より寄せられた「今後の研修会等でも取り上げてもらいたいテーマ」 (R6. 6. 27 開催より抜粋)

- BCPの具体的な研修方法、訓練方法、訓練の深掘り
- サービス別・地域別のBCP研修、海外との比較
- 施設それぞれの具体的な「あるある」を集めた、解決例などの共有
- DWA Tの実際の活動状況や現場での課題
- 防災ネットワーク設立後の検討事項

■参考：BCP シミュレーション訓練

- 横浜市社協 高齢福祉部会 災害対策プロジェクト主催 研修会
「事業継続計画（BCP）シミュレーション訓練」
- 日時：令和6年8月22日（木）10時から12時半まで
- 研修会資料：別添1参照 ※同内容を10月、ケアプラザ向けを11月に開催予定。

■情報提供：実地訓練セミナー

- 講師：(株)C o A c t 代表取締役 渡嘉敷 唯之 氏
- 実施予定団体：大阪府社協、静岡県社協、静岡県老健協、栃木県障がい者関係団体（8.23時点）
- 訓練概要：別添2参照

2024年8月22日

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
高齢福祉部会 災害対策プロジェクト主催 研修会



事業継続計画（BCP） シミュレーション研修



福祉マネジメント&デザイン
福祉経営コンサルタント
水田 智博

©Social Welfare Management & Design

1

研修の目的

- ・ 3年間の猶予期間を経た上で、「令和6年度介護報酬改定」から策定が義務付けられた事業継続計画（BCP）のシミュレーション（訓練）を通して、内容のアップデートや見直しの必要性を検証します。
- ・ 将来を予測することが困難な時代（VUCAの時代）だからこそ、施設・事業所を取り巻くさまざまなリスクに対応できるよう『リスクマネジメント』の強化や『組織の一体感』、『心理的安全性』の醸成を促し、レジリエンスの高い組織づくりを促します。
- ・ 「状況付与カード」の「状況付与」「対応」に沿って、施設・事業所で作成しているBCPを職員が「見る」「読む」「想像する」「言語化する」「振り返る」ことでBCPのPDCAを機能させたり、組織への周知・浸透を図ります。

【この研修により生み出される効果】

- BCPを「見る」「読む」ことで、職員がBCPを目にする機会を作ります。
- 「状況付与カード」を用いて、緊迫した災害発生時の状況を「想像する」ことができ、有事の際のイメージトレーニング（想定訓練）となります。
- 災害時の意思決定や対応・行動するため「言語化する」ことで指示内容や実際の動きの確認ができます。
- 混乱した状況で、情報の収集、整理、伝達、共有化、意思決定を迅速かつ確実に行うために「振り返る」ことで、内容のアップデート・見直しの必要性を確認します。

©Social Welfare Management & Design

2

背景

BCPの策定自体は徐々に進んでいるが事業継続の具体的な訓練方法を知らない事業所が多くある。それにより義務化の要件の定期的訓練や研修、見直しができない状況がある

概要

施設や事業所職員が**実際の訓練を体験**することで人材育成を図りながら、自事業所での**BCPの見直しをする機会**とする。また訓練は会場の広さや、地域特性等により必要な訓練等に合わせて複数のブースを設置して実施することにより、自施設でも同じように訓練ができるようにすることで事業所での訓練の質の向上につなげる。

参加者には**訓練の参加証明書を発行**(運営指導の時に見せることで訓練証明として利用することで、より参加者を募ることができる)

時間例(ご相談により変わります)

① 13時～17時 随時参加可能

② 14時～16時 全員同じ時間に集合

30分は訓練について研修、その後複数人ごと各ブースに参加

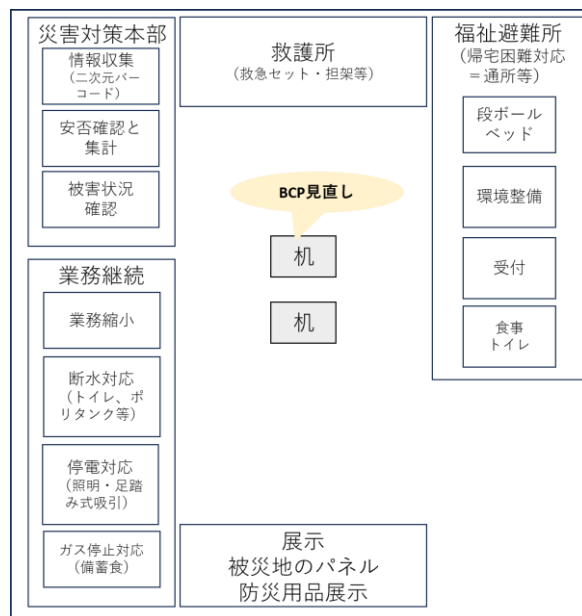
費用

20万円(税別)※あいおいニッセイ同和損保さん協賛により無料になります

訓練メニュー

- ・対策本部設置(指揮命令系統、役割分担、連絡、記録、情報収集)
- ・被害状況確認(建物等の被害状況確認)
- ・安否確認(屋内、屋外)
- ・避難について(避難判断、持ち出し品、避難場所や避難方法)
- ・業務縮小(シフト調整、フロア統合、その他)
- ・備蓄食、備蓄水
- ・受援(物資や人材)
- ・福祉避難所(受付、環境整備、レイアウト他)
- ・救護所設置と応急救護(搬送等)
- ・停電対策 発電機、ランタン、大容量バッテリー他
- ・断水対策トイレ対策
- ・被災地の画像パネル等展示
- ・防災用品展示

会場イメージ



備考

会場のご用意をお願いします

当日訓練で使用する防災用品の一部を
参加施設さんからお借りすることがあります
参加証明書の発行名義はご相談させていただきます。

団体情報交換シート（委員会用）

令和6年9月27日委員会

団 体 名	一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会	
1. 前回県老施協委員会（5月21日）から今日までに開催された協議会・部会での主たる議題		
・ かながわ高齢者福祉研究大会について ・ 生活相談援助・業務マニュアルの改訂について		
2. 地域、団体、所属する会員で抱えている課題		
・ 人材確保・育成・定着		
3. 前回の県老施協委員会から今日までに開催した行事、研修、イベント等の結果		
タイトル	講師等の氏名・役職	参加人数
新任職員等研修会	小泉昇 氏 施設長 特養 ル・リアンふかみ 他	24
事務職員研修会 会計基礎	森田敏史 氏 統括補佐 株式会社川原経営総合センター	22
認知症介護基礎研修	鈴木健之 氏 横須賀老人ホーム 他	28
施設経営者等課題研修	中野佑一 氏 課長 (株) 福祉規格総合研究所	8
4. 次回委員会（およそ2カ月先）までに開催予定の行事、研修、イベント等		
タイトル	講師等の氏名・役職	募集人数
機能訓練指導員研修	田中義行 氏 理学療法士 (株) 大起エンゼルヘルプ	40
中堅職員等研修会	綿 祐二 氏 日本福祉大学 教授	50
施設長・管理者研修	宇波秀勝 氏 秀楽苑施設長 神杉和子 氏 キラッと篤寿苑	80
栄養士研修	岡本裕子 氏 管理栄養士	45
介護フェア in かながわへの出展		
事務職員研修会 決算	森田敏史 氏 統括補佐 株式会社川原経営総合センター	40

特別養護老人ホーム入所待機状況

	令和6年4月1日現在（人）					
圏域名	要介護1 ※	要介護2 ※	要介護3	要介護4	要介護5	合計
横浜圏域	94	329	1,214	950	579	3,166
川崎圏域	58	131	844	668	476	2,177
相模原圏域	1	1	238	255	140	635
横須賀三浦圏域	11	29	361	403	220	1,024
県央圏域	26	41	517	499	331	1,414
湘南東部圏域	19	39	316	315	221	910
湘南西部圏域	19	50	379	368	264	1,080
県西圏域	0	2	230	189	122	543
神奈川県合計	228	622	4,099	3,647	2,353	10,949

※ 要介護1～5の方を待機者として算出しておりますが、
政令市である横浜圏域、川崎圏域、相模原圏域以外の圏域の要介護1、2の数値は、
特例入所に該当する方（要介護1－○又は要介護2－○の方）の数値です。
（政令市については、独自調査の結果の数値です。）

※ 本票は、待機者の実数把握のため「名寄せ」した結果をとりまとめたものであり、
個人の複数施設への重複申込み数（延べ人数）とは異なります。

団体情報交換シート（委員会用）

令和6年9月27日委員会

団 体 名	横浜市社会福祉協議会 高齢福祉部会	
1. 前回県老協委員会（5月21日）から今日までに開催された協議会・部会での主たる議題		
<ul style="list-style-type: none"> ・役員会(5/23、7/16、9/17) 総会・定例部会及びブロック会議(6/11、8/22) ・令和5年度事業報告決算報告、第14回特養実態調査の実施、よこはま高齢者福祉研究大会の検討等 		
2. 地域、団体、所属する会員で抱えている課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉人材確保、定着について ・定例部会への参加率の向上、ブロック会議の活性化 		
3. 前回の県老協委員会から今日までに開催した行事、研修、イベント等の結果		
タイトル	講師等の氏名・役職	参加人数
6/14 生活介護研究会勉強会「生産性向上について」		—
7/9 生活介護研究会 「高齢者施設における業務改善について」	ツツイグループ顧問兼コンプライアンス室室長 松川 竜也 氏	—
7/31 介護支援専門員研究会 「スピリチュアルケアについて」	大慈学苑 代表 玉置 妙憂 氏	—
8/22 災害対策PJ BCP シミュレーション研修	福祉マネジメント&デザイン 水田 智博 氏	—
8/23～31 災害対策PJ 福祉避難所情報共有システム活用訓練		
9/13 生活介護研究会 高齢者虐待防止・身体拘束 廃止勉強会・研修動画配信	育生会研修センター 川村 亜希 氏	
9/18 災害対策PJ 川崎市との意見交換会		—
9/19 自分が被災現場に直面したら	神奈川県社会福祉協議会福祉 サービス推進課 大関 晃一 氏 大島ドクトレーニングスク ール 大島 かおり 氏	—
4. 次回委員会（およそ2カ月先）までに開催予定の行事、研修、イベント等		
タイトル	講師等の氏名・役職	募集人数
10/16 高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修	育生会研修センター 川村 亜希 氏	
10/17 施設運営研究会主催研修会「相談員さん！ 一人で悩まず、みんなで解決しませんか？」		
10/22 居宅・施設ケアマネ交流会		
10/29 よこはま高齢者福祉研究大会 (会場・オンライン)		会 場 120 名
11/28・29 熊本県視察研修	特養2か所、障害者施設1か所 見学予定	
12/23 特養実態調査「フォローアップ研修」	㈱川原経営総合センター（調 査・集計分析業務委託会社）	

団体情報交換シート（委員会用）

令和6年9月27日委員会

団 体 名	川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会	
1. 前回県老施協委員会（5月21日）から今日までに開催された協議会・部会での主たる議題		
<p>【施設長会】※2ヵ月に1度、偶数月の第3水曜日に川崎市老人福祉施設事業協会と合同開催 ◎6/19、8/28</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材プロジェクト委員会・災害プロジェクト委員会の進捗状況報告 ・各種委員の推薦について ・第22回かながわ高齢者福祉研究大会について ・関東ブロック老人福祉施設連絡協議会について ・関東ブロック老人福祉施設研究総会（長野大会）について ・民間社会福祉施設従事者福利厚生費助成事業の使途について ・ふくしの出張講座について ・情報交換「経営政策研究ワーキングで協議した内容について」 「介護報酬改定を受けて取り組みが変化したことや新たにに取り組むようになったことについて」 <p>【人材プロジェクト委員会】※2ヵ月に1度、奇数月の第3水曜日に開催 ◎7/17、9/25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の仕事紹介動画の作成について ・人材定着アンケート作成について ・HW主催「福祉の仕事」説明会について ・若者サポートステーション/コネクションズかわさきへの協力について ・今後の取り組みについて <p>【災害プロジェクト委員会】※年4,5回開催 ◎7/1、9/4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市総合防災訓練における二次避難所立上げ訓練について ・情報伝達訓練について ・各区防災班での自主訓練の取り組みについて ・施設間連携強化のための他都市施設との意見交換について ・災害対応に関する研修会について <p>◎9/18</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市社会福祉協議会高齢福祉部会災害プロジェクト委員会との情報交換会 		
2. 地域、団体、所属する会員で抱えている課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保（東京都等他都市への人材の流出、介護報酬改定に伴う医療分野への介護職の流出） ・人材育成（喀痰吸引への対応等） ・災害対応（施設間の防災意識のズレ、BCPのブラッシュアップ、近隣施設間連携の強化等） ・物価高騰に伴う支出増による経営の圧迫 ・単身高齢者世帯の孤立化 ・空きビル空き物件の増加 		
3. 前回の県老施協委員会から今日までに開催した行事、研修、イベント等の結果		
タイトル	講師等の氏名・役職	参加人数
個性を活かす～みんなが笑顔になれる秘訣～	チャンス大城氏 インタレスティングたけし氏	40名

福祉施設のための SNS 活用～安心して始めるために～	NEC プロボノ倶楽部 鈴木氏 社会福祉法人聖徳会 蛭間理事長 学生福祉メディア「wel-bee」	約 40 名
4. 次回委員会（およそ 2 カ月先）までに開催予定の行事、研修、イベント等		
タイトル	講師等の氏名・役職	募集人数
BCP 訓練の手法と目的（10/29）	MS&AD インターリスク総研株式会社 西川氏（主任コンサル）	60 名

団体情報交換シート（委員会用）

令和6年9月27日委員会

団 体 名	相模原市社会福祉協議会 高齢者福祉施設部会	
1. 前回県老施協委員会（5月21日）から今日までに開催された協議会・部会での主たる議題		
<p>●市高齢協事務局会議 毎月1回（4/24, 5/17, 5/31, 7/24, 8/28, 9/25）</p> <p>●市福祉基盤課意見交換会</p> <p>・事務局との意見交換会 毎月1回（4/24, 5/17, 5/31, 7/24, 8/28, 9/25）</p> <p>●役員会（市高齢協）</p> <p>・5/22 役員会（理事会） ・2024年度「定時総会」について</p> <p>・5/22 総会 ・令和5年度事業・決算報告、令和6年度事業計画、新理事・監事（案）</p> <p>・7/10 役員会（理事会） ・合同施設長会・懇親会 について</p> <p>・7/17 合同施設長会議 ・R6年度「要望書」に向けて意見交換会 （部会と市福祉基盤課との意見交換会について）</p> <p>・9/11 役員会（理事会） ・監事変更に伴う臨時総会開催について</p> <p>・高齢協パンフレット改訂について</p>		
2. 地域、団体、所属する会員で抱えている課題		
<p>・地域区分のあり方</p> <p>・人材確保</p> <p>・福祉避難所のあり方</p>		
3. 前回の県老施協委員会から今日までに開催した行事、研修、イベント等の結果		
タイトル	講師等の氏名・役職	参加人数
6/28 市内高齢者施設が抱える様々な課題や問題の共有	相模原市高齢者福祉施設協議会 会長 大久保祐次 氏	50
8/7 通所、居宅支援のBCP作成に関する研修(ZOOM)	ツクイスタッフ研修サービス	80
7/27（1日目） もっと気軽にスーパービジョンを実践するために 8/30（2日目は台風の為中止）	山梨県立大学人間福祉学部 準教授 山中達也 氏 (社) 横浜市福祉サービス場開 所長 田中志乃 氏	20
4. 次回委員会（およそ2カ月先）までに開催予定の行事、研修、イベント等		
タイトル	講師等の氏名・役職	募集人数
12/1 介護の日フェア in さがみはら		200

新

第22回かながわ高齢者福祉研究大会

～2040 年を魅力的な福祉・介護の未来に変える～

2040年問題とは、高齢化と人口減少が進行する中で予想される一連の社会的・経済的問題を指します。

現在2024年から、そう遠い未来ではありません。多岐にわたる問題に私たちは、どのように対応し、これからの福祉・介護の未来を描いたう良いのでしょうか？

2040年は
どんな社会？

高齢化と
人口減少
が進行

人員や財源
の不足が
深刻化

労働力不足、
生産性低下etc.
多岐にわたる
問題が懸念

これらに正面から
向き合い、考える！

日程・会場 (予定)



令和7年7月2日(水)

パシフィコ横浜

(3階フロア貸切)

研究発表テーマ



大会テーマ「2040 年を魅力的な福祉・介護の未来に変える」に対して、発表テーマ（ジャンル）は特に問いません。

それぞれの施設・事業所でこのテーマに向き合い、考えられることを考察・研究し、エントリーしてください。

実践、取組み、対策のほか...
創造的な「あったらいいだろう」etc.

発表テーマ例

- 2040年問題に対して、**生産性向上**を図るために、どのような取り組みが考えられるか。
- 人材不足が予測される中で、**ICT化**を図り効率的に運営し、適材適所に職員を配置する。
- 処遇改善の一本化**を図り、外国人・高齢者・未経験者・中高年等、多様なキャリアパスを実現する。
- 今までのかかりつけ医との関係を発展させ、**医療との連携**がさらに充実し安心感が増した。
- 2040年を見据えた**認知症ケア**のあり方として求められることは何か。

～今回より新たな大会へ！

神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会では、高齢者福祉施設職員による実践活動や福祉のプロを志す学生の研究活動等、県内の高齢者福祉に関わる取り組みの発表を通し、ともに学び合い、かながわの高齢者福祉の最前線を社会に発信することを目的に、「かながわ高齢者福祉研究大会」を開催してきました。

これまで多くの高齢者福祉従事者や学生等の熱意によって積み上げてきた大会の目的・目標を踏まえ、今後の県内の高齢者福祉の発展に必要な要素を考えた「**新たなカタチ**」としてスタートします。

介護技術発表



大会テーマ「2040 年を魅力的な福祉・介護の未来に変える」を受けての技術発表となります。2040年の状況を考察したうえで、未来へ向けていかに介護技術の向上及び発揮をしていくかを考え発題してください。

発表テーマ例

- 食事・口腔ケアについて
- 移乗について
- 認知症対応について
- 災害時の避難誘導
- LIFEを活用した食事量アップ
- ICTや生産性向上

大会事務局

(福) 神奈川県社会福祉協議会 福祉サービス推進部

〒221-0825 横浜市神奈川区反町3-17-2

☎ 045-534-5662 ✉ sisetu@knsyk.jp

※各ブロック（県及び3政令市）からの推薦により、エントリーを受け付けます。詳細は各ブロック事務局にお問合せください。

令和 6 年 10 月 9 日

関東ブロック老人福祉施設連絡協議会

各都県市 代 表 者 様

各都県市 事務局長 様

第 59 回関東ブロック老人福祉施設研究総会 長野大会

(一般社団法人 長野県高齢者福祉事業協会)

大会 会 長 萱 垣 光 英

実行委員長 坂 内 孝 之

第 59 回関東ブロック老人福祉施設研究総会

長野大会へのご協力に係る御礼について

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、標記大会におきましては、関東甲信越静の各都県市からご集参いただきまして、参加者数が 1, 2 0 0 名を超える大会となり、無事、盛会裏に終了いたしました。各都県市の皆様のご尽力とご支援により、所期の目標を達成できましたこと、本当に感謝申し上げます。

また各都県市の代表者の皆様には、主催者としてご臨席を賜り、交流会等もご参加賜りまして、併せて御礼申し上げます。

今後とも一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、まずは書中をもって御礼とさせていただきます。

【長野大会実行委員会事務局】

一般社団法人 長野県高齢者福祉事業協会事務局（樋口）

〒380-0936

長野市中御所岡田 98-1 長野保健福祉事務所庁舎 2 階

TEL : 026-228-5005 FAX : 026-228-5045

E-mail : jimukyoku@naganokfk.jp



令和6年10月配信 福祉職員向け研修のご案内

地域の明日をささえる
福祉の研修



社会福祉法人川崎市社会福祉協議会
総合研修センター

〒210-0024

川崎市川崎区日進町5-1

川崎市複合福祉センター ふくふく2階

TEL : 044-223-6509 FAX : 044-223-6598

開所時間

火曜日～土曜日 9:00～17:00 (受付8:30～)

※日曜日・月曜日・祝祭日・年末年始はお休みとなります



日	月	火	水	木	金	土
休	休	●	●	●	●	●

拘縮予防・改善の介護技術の基礎知識

～拘縮予防・改善のためのケア手法～

日 時: 令和 6年 11月9日 (土) 13:30 ~ 16:30

定 員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内 容: <https://www.kensyu-c.jp/gennin.php?id=175>



講師 田中 義行 氏

理学療法士 株式会社大起エンゼルヘルプ お申込み
介護事業部部長補佐

研修番号 A-39



「65歳の壁」はなぜ生まれるのか！

～介護保険制度と障害者総合支援法の理解～

日 時: 令和 6年 11月13日 (水) 13:30 ~ 16:30

定 員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内 容: <https://www.kensyu-c.jp/gennin.php?id=185>



講師 三原 岳 氏

ニッセイ基礎研究所
保険研究部 上席研究員

研修番号 A-27



お申込み

認知症状のある方の 理解とかかわり方

日 時: 令和 6年 11月28日 (木) 9:00 ~ 12:00

定 員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内 容: <https://www.kensyu-c.jp/gennin.php?id=205>



講師 小柳 恵 氏

グループホーム つなぐ
管理者・認知症介護指導者

研修番号 A-33



お申込み

「依存症」の正しい理解とケア

～依存症の理解と支援の視点～

日 時: 令和 6年 12月5日 (木) 13:30 ~ 16:30

定 員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内 容: <https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/>



講師 松下 幸生 氏

独立行政法人国立病院機構
久里浜医療センター院長

研修番号 A-44



お申込み

介護職・福祉職に求められる 「聴く力、伝える力」のスキルを磨く

日 時: 令和 6年 12月17日 (火) 13:00 ~ 16:30

定 員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内 容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=62



講師 鈴木 雅人氏

みそら行政書士・社会福祉士事務所
リーガルソーシャルワーカー

研修番号 A-21



お申込み



044-223-6509

受付 / 8:30 ~ 17:00 開所 / 火曜 ~ 土曜
(祝日を除く)

研修に関する詳しい情報は内容にアクセスまたは電話にてお問合せください。

福祉に携わる

令和6年度 福祉職員向け階層別研修

中堅職員

チームリーダー

組織でも現場でも

頼れる職員になる

向け研修

1日できる!
“川崎市版”
階層別研修

講師: 広嶋 稔之氏
山本 忠弘氏
福井 由紀氏



お申込み

日時: 令和 7年 1月15日 (水) 9:30 ~ 16:40

定員: 30名

受講料: 4,000円

内容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=45

つながる、巻き込む、支えあう 専門職による地域づくりの実践例



講師 宮下 公美子氏
介護福祉ライター

研修番号 A-17



お申込み

日時: 令和 7年 1月21日 (火) 13:30 ~ 16:30

定員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=33

医療的ケア児 当事者・家族・支援者のつながり



研修番号 A-07



お申込み

日時: 令和 7年 1月25日 (土) 14:00 ~ 16:00

定員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=61

講師: かながわ県医療的ケア児家族会
～ つなぐ ～
代表 小山 陽子氏、他

支援者を援助するスーパービジョン

～ 自分の^{ココロ}をサポートしながら支援者を育てるために ～



講師 山中 達也氏
山梨県立大学人間福祉学部
准教授

研修番号 A-45



お申込み

日時: 令和 7年 1月31日 (金) 9:30 ~ 16:30

定員: 40名 (先着順)

受講料: 4,000円

内容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=69

報酬改定による高齢者・障害者支援への 影響と対応



講師 元山 ゆず香氏
DXO株式会社
介護福祉士

研修番号 A-48



お申込み

日時: 令和 7年 2月12日 (水) 13:30 ~ 16:30

定員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=53

第19期 川崎市認知症介護実践リーダー研修

法定研修

※受講義務について

指定認知症対応型共同生活介護事業所において、短期利用共同生活介護サービスを実施する場合には、認知症介護実践リーダー研修、(旧「痴呆介護実務者研修(専門課程)」でも可)の修了が義務付けられています。

日時: 令和6年12月4日(水)～令和7年2月5日(水)

定員: 30名(申込者が定員を上回った場合は、川崎市の選考により決定)

受講料: 20,000円(テキスト代含まず)

内容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=63



お申込み



出典:外国人にわかりやすい地図作成の取り組み (<https://www.ssi.go.jp/kihonjohochousa/kihonjohochousa40072.html>)に掲載されている地図記号を利用して当センターにて作成



044-223-6509

受付/8:30～17:00 開所/火曜～土曜
(祝日を除く)

研修に関する詳しい情報は、この内容にアクセスまたは電話にてお問合せください。